



平成 29 年 12 月 22 日

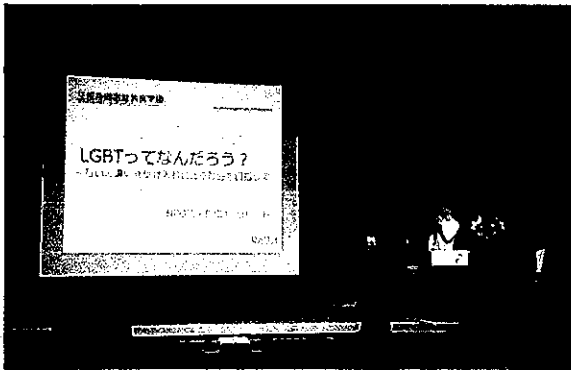
PTA 会員の皆様へ

和みの学び舎

奥沢中学校 PTA 会長	小宮 美和
奥沢中学校家庭教育学級委員長	橋爪 有里
奥沢小学校 PTA 会長	平川 英明
奥沢小学校家庭教育学級委員長	井堀 華代
東玉川小学校 PTA 会長	前澤 勉
東玉川小学校家庭教育学級委員長	菊池 正美

平成 29 年度 三校合同家庭教育学級便り

平成 29 年 12 月 9 日（土）奥沢中学校体育館にて、三校合同家庭教育学級を開催致しました。特定非営利活動法人 ReBit 様から講師 2 名をお招きし、「LGBT ってなんだろう？—全ての子どもがおりのままの自分で大人になれる社会へ—」というテーマで、ご自身の経験をふまえながらお話して頂きました。当日は、73 名（奥沢中 27、奥沢小 22、東玉川小 24）の保護者のみなさまにご参加いただきました。



<講演の様子>

今日の日本では性別を「男性」「女性」で分けることがほとんどで、異性を好きになる事が『ふつう』とされています。しかし、ReBit ではセクシュアリティ（性のあり方）をからだの性・こころの性・好きになる性・表現する性の 4 つの要素で説明しています。その組み合わせで多様なセクシュアリティが存在するのです。

その中で、セクシャルマイノリティー（性的少数者）を指す言葉として「LGBT」が使われ、例えば T（トランスジェンダー）はからだの性とこころの性が一致しない場合を表します。

LGBT の人は日本では約 13 人に 1 人とされています。血液型が AB 型の人が約 10 人に 1 人、左利きの人が約 10 人に 1 人と考えると、決して少ないという訳ではありません。

そんな状況の中で、「セクシャルティーは見ただ目ではわかりづらい」ので、LGBT の人を無意識に傷つけてしまいかねません。LGBT の人にさまざまな困難が続くと、自己否定につながることもあります。

（講師の方も、苦しい時期を過ごされた経験をお話して下さいました。）

そのために、一番身近である大人の理解が大事です。具体的な行動としては、

- ・差別用語を使わない（ホモ、オカマ、レズなど）、使っている人がいたら「そういうふうになると傷つく人もいるよ」と注意する。
- ・「彼氏（彼女）いるの？」ではなく、「恋人いるの？」「付き合っている人いるの？」と聞く。
- ・LGBT を知っている、と伝える。（LGBT に理解があることも見てわからない） …など。

今日の講演で性のあり方の違いを知っていただくのをきっかけに、どんな違いも受け入れあえる社会であることを願っています、とのことでした。

来賓の世田谷区教育委員会の吉田周平先生からは、「知る大切さ、受け止める大事さを感じました」とお話頂きました。

【参加者の感想（抜粋）】

○本やその他のメディアからは情報は入ってくるが、実際の方からの率直なお話を聞く機会がなかなかないので、貴重なお話をありがとうございました。

○人として、多様な存在があることを理解したいと思いました。子どもにも伝えたいです。

○すぐに行動にうつすのは難しそうですが、今回“知る”ことができたのが大きな一歩でした。

○「ふつう」って何だろう、LGBT に限らず発達障害や難病など一人一人が知ることで皆がお互いのことを理解して尊重して生きやすい社会になっていけばと願います。

今回をもちまして、今年度の家庭教育学級は終了致します。一年間ご協力ありがとうございました。